

[様式14]

(対象事業：2.ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業)

事業名：長野県内美術館・博物館等との
連携事業ミュージアムガイドブック制
作

外観写真

事業者名：長野県博物館協議会

連携事業館名：別紙のとおり（116館）

詳細は別冊子「長野県博物館協議会加盟館職員名
簿」参照

住所：

TEL：

FAX：

HPアドレス：

①施設概要

長野県博物館協議会に加盟している長野県内の博物館・美術館とその相当施設116館

②事業の意図目的

長野県博物館協議会は博物館・美術館相互の連絡と協力のもと、博物館活動の推進を通じて文化の向上に寄与することを目的として昭和29年に設立された。そこに加盟している施設は、展示資料や設備・立地など様々である。そのため中にはすばらしい資料を所蔵していながら、十分に情報発信ができないために人知れず埋もれている施設もある。そこで、長野県内の美術館・博物館などの分野の枠を越えた連携を行うことにより、来館者の視野や関心を広げるとともに、地域文化の発展を促し、新たな文化拠点が形成されることを目的とする。そこで長野県博物館協議会加盟館を中心とした「長野県ミュージアムガイド」を作成した。

③事業概要

A6版変型、174頁の持ち運びに便利でハンディな長野県内の美術館・博物館ならびにその相当施設と観光地のガイドブック、30,000部の作成。
加盟館に180冊ずつ配布し、無料提供とした。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（『長野県ミュージアムガイド』冊子）

作成した報告書等

ビデオ（

）

冊子（『長野県ミュージアムガイド』報告書）

その他（

）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 人

内 訳

(1) 事業の実施状況について

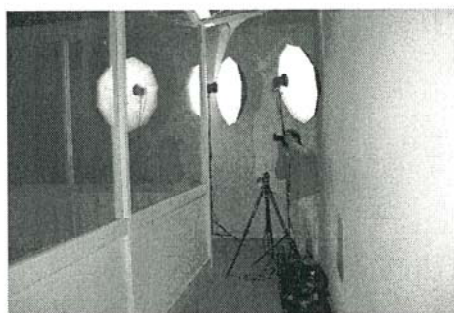
平成 19 年 6 月 19 日に芸術拠点形成事業の採択の内定を受け、8 月 10 日に長野県博物館協議会の臨時役員会にて、県内美術館・博物館のガイドブックを作成することと具体的な編集方針が正式に決まった。その後、受託者である信毎書籍印刷株式会社の担当者と協議して、具体的な制作にとりかかった。おおまかなスケジュールは以下のとおりである。

2007年9月	取材
10月	取材
11月	取材・原稿作成・データ作成・編集（デザイン・レイアウト）
12月	追加取材・原稿作成・データ作成・編集（校正）
2008年1月	データ作成・編集（校正・各館へ照会、市町村への照会）
2月	編集（校正・色校正）・印刷・製本
3月	納本・アンケート・報告書作成



臨時役員会の様子

天候の日に撮影することを原則としたので、悪天候で撮影できない日もあり、後日撮影という館もあった。作品を撮影する場合は、大掛かりな照明を使う必要もあり、その場合は専門の写真家に撮影を依頼した。同時に掲載観光地の撮影をおこなった。なるべく天気のよい日を選んで、館の取材の合間に撮影した。花など季節の写真を使いたい場合は、市町村の観光課から写真を借用した。その場合は著作権などにも十分留意した。



撮影風景

取材について

取材は、それぞれの館の館長や学芸員におこなったので、入館者が多い時間帯や昼時はできるだけさけた。各館には事前に連絡して取材予定日や時間を打合せ、効率よく回るよう計画したが、一日で多くて4館、平均2～3館で、予定していたより時間がかかった。

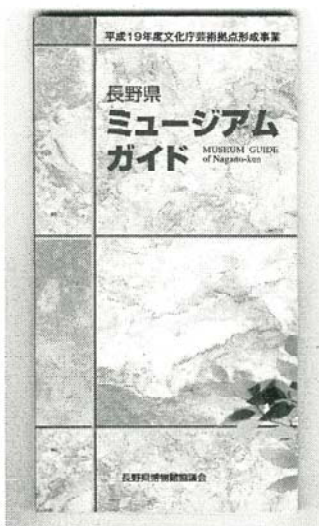
写真は、原則として館から提供してもらったが、支給されない場合には、写真撮影もおこなった。外観写真は好

館によっては、企画展・特別展を開催する館もあったが、常に観覧できる内容として、常設展示の情報を中心に取材した。初めての入館者にもできるだけわかりやすくなるように記載した。また、各館が同等の扱いになるように客観的な文章にした。文章は10月ごろから作成し、県博協事務局の担当者と協

議しながら執筆を進め、12月に完成した。

編集・制作について

ガイドブックはいろいろなタイプのミュージアムを掲載するため、表紙は特定の館を連想させないよう配慮した。一般的なミュージアムのイメージが感じられるように、ミュージアムのエントランスならびに外壁のイメージで大理石の模様を紙面に配置した。また、読者がほしいと思えるように、できるだけすっきりとした新鮮なデザインをこころがけた。



表紙

本文のレイアウトについては、紙面がコンパクトではあるが、できるだけたくさんの情報が盛り込め、かつ読みやすくなるように構成した。長野県を四地域に区分し、よりわかりやすく検索しやすいようにサイドのツメ部分も色分けした。案内図は若干デフォルメしたが、わかりやすく行きやすいように配慮した。

一度目の校正は12月初旬に県博協事務局でおこなった。内容の修正後、校正を1月初旬各館に郵送し、各館で内容の確認をしてもらった。各館からの修正が1月中旬にとどき、再び修正後校正を事務局でおこなった。編集作業では、できるだけわかりやすい簡潔な文章にすることと、文章表現や文字の統一をはかること、地図が最新のものであるか確認すること、写真の鮮度に注意した。2月初旬に事務局のメンバーと7名ほどで、最終校正をおこなう。その後色

校正をおこなったが、この段階で写真の差し替えが多くでて、再度色校正を実施し、3月初旬に印刷・製本となった。

各地域の観光地などを紹介する頁は、市町村の観光課などで校正を確認してもらいながら作業を進めた。各館や市町村にも確認をお願いし、多くの人の目で校正するなど、十分留意して編集にあたった。

巻末の県博協加盟館以外の美術館・博物館等のリストは、長野県教育委員会のホームページをもとに作成した。各館や該当市町村に直接電話して調べた。

できあがった冊子については、おおむね好評で、ガイドブックを手にしてこれからこの本をもとに美術館・博物館めぐりをすると嬉々として語る来館者も見られた。



館紹介頁

(2) 地域との連携について

このガイドブックを制作するにあたって、県博協加盟館 116 館の協力を得た。多くの館が協力的であり、感謝している。しかし中には、多忙なためか、校正原稿を送付してもなかなか返ってこなかったり、また逆に各館 1 頁のところを 2 頁にしてほしいというような要望もあり、調整の必要があった。県博協の役員が在籍している館はガイドブック制作について話がよく行き渡っており積極的であったが、役員会などでの決定事項はそのつど全加盟館に通知しているにもかかわらず、事務局の熱意が伝わらなかった館もあった。これは、県博協への期待値の差異とも言えよう。県博協は昨年度まで、とくに大きな事業を展開することなく続いてきていたので、今年度急に『長野県ミュージアムガイド』を制作すると発表しても、自分の館も係わる大きな事業であることが認知されにくかったのではないかと考えられる。

また、比較的小さな公立館などは、連絡先が町村の教育委員会などになっており、館の館長や学芸員となかなか連絡がとれないこともあった。それは、各館の活動量にもよると考えられるが、一般の来館者へのサービスという観点からみると親切とは言えない現状である。ここにも運営費の節減が係わっているのであろうが、館はあっても苦しい運営状況が垣間見られた。一方市町村の観光課などは総じて積極的で、ガイドブックを観光課でも配布したいというような要望も聞こえている。県博協としては、各地域の美術館・博物館・観光課などと連携をとり、特に貴重な展示資料を所持しながらアピール力の弱い弱小館のバックアップなど様々な企画を立てて、長野県の文化活動、またそれによって派生してくる経済活動に貢献していきたい。

(3) 成果物について

『長野県ミュージアムガイド』は以下の点について留意して制作した。

- ① 携帯に便利のように A6 版変型というハンディなサイズにした。
- ② 携帯に便利のように総ページ数を 174 頁に抑えた。
- ③ 簡単に館の基本的な情報が得られるように各館 1 頁の掲載を基本とした。
- ④ 読み込まなくても情報が得られ、館をイメージできるようにできるだけ大きめのカラー写真とキャッチフレーズを掲載した。
- ⑤ 休館日・入場料・交通案内など基本的な情報は頁の末尾に簡便な地図とともにコンパクトにまとめた。
- ⑥ ミュージアムのほかに近くの観光地も訪ねられるように、地域別の掲載とし、「みどころガイド」として観光地の紹介もした。
- ⑦ 訪問先の「モデルコース」もいくつか紹介した。
- ⑧ 見る人が新しい発見をするように、あえて美術館と博物館を分けずに掲載した。
- ⑨ 長野県内を 4 つの地域に分けて掲載し、各地域の広域マップも掲載し、ミュージアムの位置がわかりやすいように配慮した。
- ⑩ 県博協加盟館 116 館だけでなく、そのほかの美術館・博物館等相当施設 238 館も巻末にリストとして掲載した。

(4) 参加者の反応

ミュージアムガイドの効果を知るためにアンケートをおこなった。実施期間は3月7日～15日までの9日間で、県内の12館でおこない、総計682人から回答を得た。その主要な設問と回答は以下のとおりである。

- ① このガイドブックを友人や知人にもあげたいと思いますか。
「無料ならほしい」が481人、「多少料金がかかってもほしい」が138人、「無回答」37人、「必要ない」25人である。「無料ならほしい」「多少料金がかかってもほしい」を合わせて91%の人がほしいと回答している。
- ② ガイドブックについてどう感じましたか。
「たいへん便利だ」が421人、「まあまあ使える」が228人、「使いにくい」2人、無回答31人である。「たいへん便利だ」「まあまあ使える」を合わせて95%が利用できると考えている。
- ③ デザインや写真はどう感じましたが。
「きれい」が462人、「ふつう」が181人、「きたない」0人、無回答39人である。67%が「きれい」と回答している。
- ④ 内容についてはどう感じましたか。
「わかりやすい」が422人、「ふつう」が191人、「わかりにくい」が5人、無回答64人である。62%が「わかりやすい」と回答している。
- ⑤ ガイドブックの情報は役に立ちましたか。
「大変役にたった」が317人、「少し役に立った」が246人、「あまり役に立たなかった」が9人、「役に立たなかった」が1人、無回答109人であった。83%の人が役に立ったと回答している。
- ⑥ ガイドブックを見てほかの博物館や美術館にも行きたいと思いますか。
「ぜひ行きたい」が262人、「時間があれば行きたいと思う」が340人、「行きたいと思わない」が1人、無回答が79人であった。88%の人がほかの博物館や美術館を訪ねたいと回答している。しかし、「時間があれば」という条件付きが50%と半数を占めている。このことから多忙な現代人の生活が見えてくる。とはいえ美術館・博物館の探訪の糸口にこのガイドブックはなっていると言うことはできよう。

その他のコメントをいくつか紹介する。

- ・「県内の多くの施設がまとまった見やすい本を持っていなかったのがありがたい」30代女性。
美術館のガイドブックはあっても、博物館と美術館が両方掲載されている県内の施設案内はありそうでなかなか見当たらず、その点ではこのガイドブックは画期的な企画であったと言えよう。
- ・「エリアをカラーで分けていて見やすい」50代女性。
県内を4地域に区分したことと、頁のサイドのツメ部分を色分けしたことで、目次を見なくても、目的の館が見つかりやすくなっている点で、便利だという声が少なくなかった。
- ・「行ってみたいところがたくさん見つかった」40代女性。

県内に住んでいても自分の行動範囲が限られていて、さまざまな施設を意外と知らない人びとが多いのではないかと。さまざまな施設や観光地を知らせるという意味では、積極的に活用してほしいガイドブックが出来上がったと言えるのではないかと。

- ・「北信はどこか県外には分からないので長野県全体の地図があればいい」県外 10 代女性。

確かに長野県の地理をよく知らない県外者にとっては、4 区分した地図だけ見せられても長野県の全体像が思い浮かばないので、わかりにくかったかもしれない。改版が可能ならば、長野県全図も掲載した方がよいだろう。

- ・「できれば文字がもう少し大きければよい」50 代女性。

年輩者にとっては考えなければならない問題である。コンパクトにハンディにと考えて、このポイント数を選んだが、60 代 50 代の来館者の比率が最も多い長野県の現状では、記述情報を減らしても文字を大きくするということは、改版が可能ならば検討の余地がある件と考えられる。

- ・「子ども用にも欲しい」20 代女性。

今回のアンケート結果では、10 代以下は来館者数全体の 2%強にすぎないが、次世代のリピーターを増やすという視点では、放置できない要望である。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回芸術拠点形成事業として『長野県ミュージアムガイド』を 3 万部刊行し、県博協加盟館 116 か所のほか、県内小・中・高校 728 か所、県内公民館 169 か所、全国の博物館協議会 44 件、県博協加盟館以外の美術館・博物館 238 件に送付した。

長野県内の美術館・博物館等の施設を網羅した冊子は、今までであるようでいてない、ニーズの大きな企画であった。本冊子はそれだけでなく、地域の観光地も共に紹介し、訪問のモデルコースまで提案している。市町村の観光課もこの冊子に目をとめ、配布したいむねを打診してきているところもある。アンケート結果を見ても、総じて好意的に受けとめられていることがわかる。

文字が小さい、長野県全体の地図がほしいなど、改善点も指摘されているが、改版が可能ならばよりよいものに変えていきたい。一回つくって終わりにするのではなく、このガイドブックをきっかけにして、県内の各地域、そしてその地域に根ざしている美術館・博物館を核とする連携・ネットワークづくりの第一歩を歩み出したい。来館者にはミュージアムだけをピンポイントで押さえるのではなく、その周辺の施設・自然という地域ぐるみの観光・訪問を計画してもらい、町ぐるみの文化・経済活動の発展を可能にしたい。

予算措置の乏しい中、『長野県ミュージアムガイド』を発行できたのは、一重に文化庁の芸術拠点形成事業に採択されてのことである。関係者の方々には、心より感謝する次第である。

(6) 新聞記事等

特になし